

## 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

### 第 236 回 自然か？不自然か？～これからの判断基準

2008. 1. 13

実は小生、昨年暮れ、1週間ほど入院、手術を体験した。極々軽度な疾患で、打ち明けるのも恥ずかしい次第であるが、物心ついてからの初めての入院で、56年と半年間、一度も手術の経験はなく、臆病ゆえ、毎日怯えながら不安の中での年越しだった。

そう言えばこの1週間、中々できない貴重な経験をした。メール以外は仕事せず、病院関係者、家族以外は人にも会わず。アルコールを一滴も呑まなかったのは、18歳以来38年ぶりの快挙であった（早く取戻すため、今は毎日、焼酎を浴びるほど呑んでいる）。

1週間、娑婆と隔離されると、普段見えないものが見えてくる。～何でこんなに病人が多いのだろう、本当にこの国は「健康・長寿」の国なのだろうか？～救急病院の医師・看護師さんの大変さ、なるほど開業医が多くなる訳が、何となく納得できた。～病院の食事の不味さは、勘違い。実は普段食べ慣れている「味」が、おかしかったのだとの疑惑？～今は縫合に糸は使わず、ホチキスでパッチン…この不気味さと恐怖感等々、普段考えたこともなかった不可思議な疑問が溢れ出て、1週間の入院は全く退屈せずに過ぎていった。

でも、一番感じたことは、…「健康」の有り難さは、病気になって初めて分かるもの…と言うことに他ならない。我々は本来、「健康」が自然だと思う。病気、病（やまい）は、人間や動物の心や体に不調または不都合が生じ、医療による改善が望ましい状態であることを言う、つまり自然でない、不自然な状態と置いていいだろう。

我々は今以上に、この不自然さの解消を考えるべきだと思った。イコールそれは、自然の大切さと言うことになろう。自然とは、グリーンツーリズムとか、エコ、地球温暖化とか、生態系の環境が注目されつつあるが、ここで言う意味は、それとは少しニュアンスが違う。不自然でないと言うべきか、摂理的判断の問題として考えてみたい。

今まで我々の「判断基準」は、良否、損得、経済性、効率性といった要素で物事の判断をしてきた。どちらの選択が、利益が上がるか？多少無理しても〇月にはオープンさせる！効率的には後〇人、人件費を削減すべき！…恐らくこんな判断をしていたかもしれない。でも実は、もっと大切な「判断基準」があったことに気が付いた。それがたぶん「自然か、不自然か」と言うことかもしれない。病気は治すべきであり、それこそが自然である。そこには良い悪い、損得等の判断の、介入すべき第一義的余地はないのだろう。

これはただ病気に限ったことではない。人事採用も、設備投資も、新商品開発も、本当にそれが自然で、必要なことなのか？まず「最初の基本命題」として考えるべき事かもしれない。そして、不自然でないことの検証をするべきなのかもしれない。

病院で手術しながら、こんなことを考える人も奇妙奇天烈かもしれないが、これも普段見えなかったことが見えた経験のおかげである。病気になって良かったでは決してなく、病気を治して良かったと言うこと、誤解しないで欲しい。

体重も8kg減少し、この際、髭をつけ、髪型を若作りにし、まるで別人であること、告白しておく。2008年のイメチェン、マズマズと、自己満足している。